

神戸産スジコガネ亜科甲虫に就いて※

高橋 寿郎

まえがき

前号に引続き神戸産金亀子虫科中のスジコガネ亜科に就いて発表する。スジコガネ亜科には多くの種がふくまれて居り、其の同定も仲々困難であり、筆者の調査した所では従来神戸産として報じられた本亜科の種の中に於いても若干同定の誤りがあるのではないかと思われる種もある。

今回発表する神戸産スジコガネ亜科のものは現在筆者が所有する標本に基いて記したもので大体神戸産の本亜科のものとして同定に間違いが無いと思われる所を記したもので尙浅学未熟の爲め誤りも有り之以外の種が神戸産としてあるかも知れないが其れ等は御教示頂いて完成致し度く思う。

本文を草するに当り日頃文献其の他で御世話になっている西京大学、中根猛彦氏、標本其の他で援助を頂いている和田義人君及び本文発表の機を与えられた恩師室井先生に厚く御礼申し上げる。

目録

Subfamily RUTELINAE

神戸産 RUTELINAE の族の検索表

1. 上唇水平にして下方に彎曲することなし。

Anomalini

2. 上唇下方に伸長す。

Adoretini

Tribe Anomalini

この族には多くの種を含み分類も困難であり属のわけ方に就いても色々あるが本文に於いては以下の様に取扱つた。即ち *Mimela* 属に関しては沢田氏の研究(昆虫, VIII, 3, 1950, pp. 10~11.)の如く *Anomala* 属と分けない方が良いと考えた。

亦 *Phyllotertha* 属に就いても古く G. J. ARROW 氏が *Anomala* 属とわけられぬ事を言われ(Ann. Mag. Nat. Hist. 8, XII, 1, 1913)、沢田氏も一応は独立属として発表されたが(日本の甲虫, IV, 1, 1941, pp. 42~58)、後の報文に於いては *Anomala* 属として取扱つておられる(東京農大農学集報, II, 2, 1950, p. 269)。筆者も本報文では *Anomala* 属として取扱つた。

それ故神戸産 Anomalini は次の2属になる。

1. 前背板は小楯板の前で切れ込んでいない。

Anomala

2. 前背板は小楯板の前で切れ込んでいる。

Popilia

Genus *Anomala* SAMOUELLE

神戸産 *Anomala* 属の種の検索表

1(4) 前胸腹板は前脚の基節間に明瞭なる突起を有する。

2(3) 翅鞘の縦隆線高からず胸背板全く黄色部なし。 *A. splendens*

3(2) 翅鞘の縦隆線明かなり胸背板の側縁に沿い黄色部あり。 *A. flavilabris*

4(1) 前胸部の腹面著しき突起を有せず。

5(16) 体の上面に毛を有す。

6(11) 胸背板の毛著しくして直に認め得。

7(9) 翅鞘の毛は殆んどなきが如し。

8(10) 翅鞘滑かなる黄色をなす。 *A. diversa*

9(7) 翅鞘の毛は明かに認め得る。

10(8) 翅鞘黄色にして緑色の縁を有す。

A. irregularis

11(6) 胸背板の毛少なきも側縁のもの長し。

12(15) 翅鞘は円味を帯びず。

13(14) 翅鞘上の縦隆線強くして明かなり。

A. octiescostata

14(13) 翅鞘上の縦隆線明かたして少くし扁平なり。

A. conspurcata

15(12) 翅鞘円味を帯び、翅鞘上の縦隆線不明にして平滑なり。 *A. pubicollis*

16(5) 体の上面に毛を有せず。

17(20) 翅鞘上に明かなる縦隆線を有す。

18(19) 翅鞘上に小数の縦隆線を有し、中間室に光沢あり。 *A. costata*

19(10) 中間室は光沢なし。 *A. testaceipes*

20(17) 翅鞘上の縦隆線不明なり。

21(24) 翅鞘の側縁の中央より先端に向つて稍や広き褐色縁膜あり。

22(23) 体銅銜色をなす。 *A. cuprea*

23(22) 体緑色を呈す。 *A. viridana*

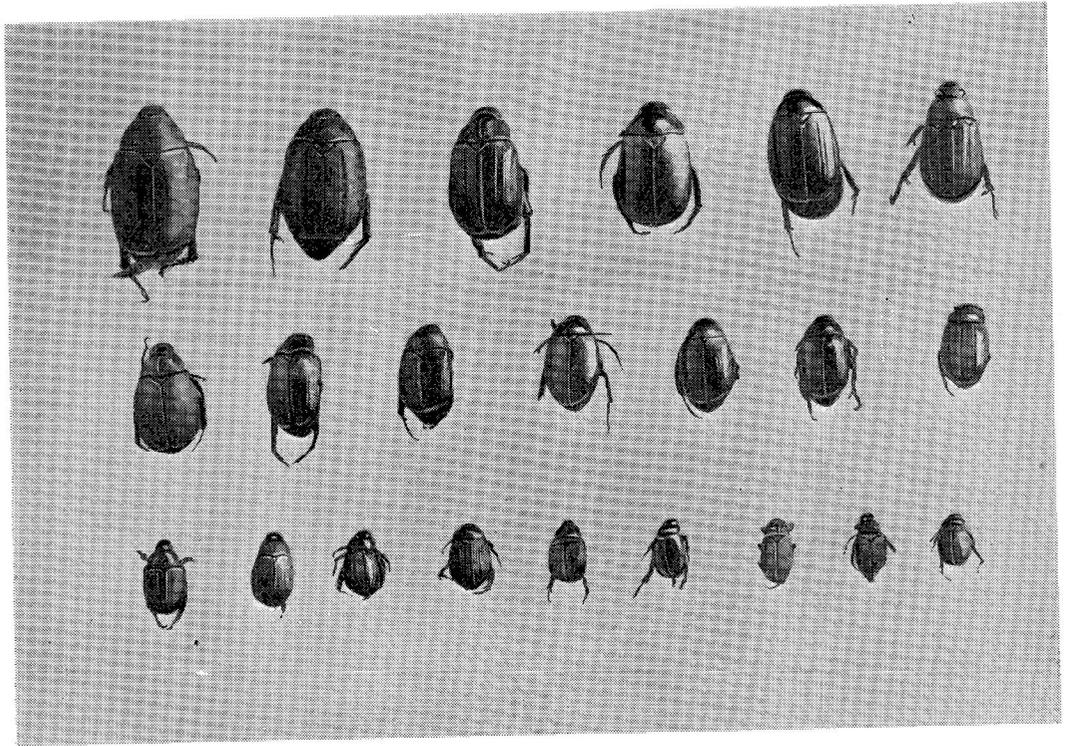
24(21) 翅鞘の側縁の中央より先端に向つて広き褐色縁膜なし。

25(26) 胸背板著しく強き点刻を有す。

A. multistriata

※ 兵庫県金亀子虫相資料 4

1) 兵庫生物 I, 5, p. 95, (1951.) 2) 同, VIII, 1, p. 25, (1952.) 3) 同, II, 2, p. 101, (1952.)



寫眞説明

(第1列左より1~6, 第2列左より7~13, 第3列左より14~22)

- | | |
|--|-------------------------|
| 1. <i>Anomala cuprea</i> HOPE) | ドウガネブイブイ (鳥原産) |
| 2. <i>A. viridana</i> (KOLBE) | ヤマトアオドウガネ (多田産) |
| 3. <i>A. costata</i> HOPE | オオスジコガネ (鳥原産) |
| 4. <i>A. splendens</i> GYLLENHAL | コガネムシ (鳥原産) |
| 5. <i>A. daimiana</i> HAROLD | サクラコガネ (鳥原産) |
| 6. <i>A. testaceipes</i> MOTSCHULSKY | スジコガネ (鳥原産鳥原産) |
| 7. <i>A. lucens</i> BALLION | ツヤコガネ (鳥原産) |
| 8. <i>A. flavilabris</i> WATERHOUSE | ヒメスジコガネ (山の街産) |
| 9. <i>A. rufocuprea</i> M var. <i>violacea</i> OHAVS | アオイロヒメコガネ (鳥原産) |
| 10. <i>A. geniculata</i> (MOTSOHULSKY) | ヒメサクラコガネ (御影産) |
| 11. <i>A. rufocuprea</i> MOTSCHVLSKY | ヒメコガネ (箕谷産) |
| 12. var. <i>castanipennis</i> OHAUS | クリイロヒメコガネ (山の街産) |
| 13. <i>A. multistriata</i> MOTSCHULSKY | ハンノヒメコガネ (六甲産) |
| 14. <i>Papilli japonica</i> NEWMANN | マメコガネ (鳥原産) |
| 15. <i>Anomala octiescostata</i> BURMEISTER | ヒラタアオコガネ (鳥原産) |
| 16. <i>A. orientalis</i> WATERHOUSE | セマダラコガネ (鳥原産) |
| | (この標本はタンバヒメコガネと云われたもの。) |
| 17. 同 | (鳥原産) |
| 18. <i>A. cospurcata</i> HAROLD | カタモンコガネ (鳥原産) |
| 19. <i>A. irregularis</i> WATERHOUSE | キスツコガネ (山の街産) |
| 20. <i>Adoretus lenuimaculatus</i> WATERHOUSE | チャイロコガネ (箕谷産) |
| 21. <i>Anomala pubicollis</i> WATERHOUSE | ナラノチャイロコガネ (箕谷産) |
| 22. <i>A. diversa</i> WATERHOUSE | ウスチャコガネ (香榎園産) |

- 26(25) 胸背板著しく強き点刻を有せず。
27(28) 翅鞘の側縁隆線は翅の彎曲部に達す。

胸背板の点刻微細ならず。 *A. daimiana*

- 28(27) 翅鞘の側縁隆線は翅の中央部の後にて終る。
29(30) 翅鞘上に褐色の斑紋、もしくは黒色を呈す。

A. orientalis

- 30(29) 翅鞘上に強き光沢あり。

- 31(32) 胸背板の点刻著しく微細なり。

A. geniculata

- 32(31) 胸背板の点刻著しく微細ならず。

- 33(34) 翅鞘黄褐色にして美淡緑光沢を呈し、点刻やや小なり。 *A. lucens*

- 34(33) 胸背板と翅鞘同色ならず点刻稍や大なり。

A. rufocuprea

1. *Anomala cuprea* (HOPE) ドウガネブイブイ
HOPE, Proc. Zool. Soc. London, VII, p. 72
(1839) (*Euchlora*)¹⁾

普通に得られる種である。ブドウの葉を喰う害虫として知られて居る。

(採集地)²⁾ 多田、鳥原、箕谷、再度山、須磨。

(分布) 千島(国後島)、北海道、本州、佐渡ヶ島、隠岐島、四国、九州、対馬、種子島、屋久島。

2. *Anomala daimiana* HAROLD サクラコガネ
Deutsch. Ent. Zeitschr. p. 354, (1877)

本種も神戸地方では普通に得られる種である。果樹、サクラ等の葉を食害する。

(採集地) 鳥原、多田。

(分布) 北海道、本州、伊豆大島、四国、九州、朝鮮。

3. *Anomalageniculata* (MOTSCHULSKY)

ヒメサクラコガネ

Bull. Mosc., 1866 i, p. 171 (*Rhinoplia*)

サクラコガネに良く似た種であるが従来色々と同定の誤りがあつた種で此の経過に就いては沢田氏の報文(関西昆虫学会々報, X. IV 1. PP. 14~19. 1914)に詳しく出て居る。記載に就いては新島、木下両氏の論文にある(1923)、ただ体下面の色彩によつての *daimiana* との区別は沢田氏の云われる通り當を得て居らぬ。一見して体の小さな事、翅鞘縦線の少い事、頭楯の形状等で区別出来る。神戸では余り採集されて居ない様であるが和田君に依ると御影附近で可成り得られるらしい。筆者も和田君採集の一頭を所有する。

(採集地) 御影、1♀, 3—VIII—1948

(分布) 北海道、本州、九州、琉球(奄美大島)。

4. *Anomala lucens* BALLION ツヤコガネ

Bull. Mosc., 1871, P. 155

色彩の変化極めて著しきものあり。一般に背腹面共に淡黄褐色を呈し、背面は一樣に綠色光沢を帯びて居る。それより次第に濃色に移りゆく。併し神戸にて採集せるものは現在の所余り濃色になつた個体は得て居らぬ。沢田氏に依ると黒化迄の色彩の変化が記されて居る。神戸に於てはサクラコガネより個体数は少い。雄交尾器の変化も可成りある。

(採集地) 箕谷、鳥原。

(分布) 北海道、本州。

5. *Anomalarrufocuprea* MOTSCHULSKY

ヒメコガネ

Etud. Ent. K., p. 14 (1860) (Japan)

ヒメコガネ、ハンノキコガネは極めて類似し其の区別は外見上では一寸出来難い。沢田氏は此の二者を同一種、若くは亞種と扱ふ事を提唱されたが筆者は同一種とした方が良い様に思ふので此の報文では上記の如く取扱つた。

本種は当地方では極めて普通種にて *genitalia* は沢田氏の報文に依れば *A. motschulskyi* に近い様である。

(採集地) 箕谷、鳥原、山の街、多井畑、六甲。

(分布) 北海道、本州、四国、九州。

- 5 a. var. *castonipennis* OHBUS

クリイロヒメコガネ

Stettiner Ent. Zeit., LXXXVI, p. 320 (1913)

体は暗青色、翅鞘のみ栗色で側縁は黒褐色である。個体数は少い。

(採集地) 高取山、箕谷。

(分布) 北海道、本州、四国、九州。

- 5 b. var. *violacea* OHBUS アオイロヒメコガネ

体色青藍色、普通に居る。

(採集地) 山の街、箕谷、大池、多井畑。

(分布) 北海道、本州、伊豆、四国、九州。

- 5 c. var. *viridiaenea* OHAUS ミドリヒメコガネ

Stettiner Ent. Zeit., LXXXVI, p. 320 (1915)

綠色種、個体数は多い。

(採集地) 六甲、箕谷、多井畑、須磨。

(分布) 本州。

6. *Anomala viridana* (KOLBE)

ヤマトアオドウガネ

Arch. f. Natng., III, 1886, P. 192 (Korea)

(*Euchlora*)

1) 文献は原記載のみ掲げた。

2) 採集地には現在筆者所有標本に就てのみ記した。

従来アオドウガネ (*A. albopilosa*) と混同している種であるが沢田氏の研究に依り判然とした。体の上面緑色にして *A. cuprea* と色彩に於いて明瞭に区別される。*A. albopilosa* が神戸で記録されて居り、本種の記録が無かつたが両者が非常に似て居る種なので今迄の神戸で記録された種が真の *A. albopilosa* であるか否かわからない。筆者は *A. albopilosa* を採集した経験は無い。*A. albopilosa* の方は尾節板に淡褐色毛を密生して居るので本種と区別出来る。

(採集地) 多田, 1 ♀, 19—Ⅶ—1938.

(分 布) 本州、四国、九州、対島、済洲島。

7. *Anomala multistriata* MOTSCHULSKY

ハンノヒメコガネ

Etud. Ent. X, p. 7 (Heteroplia) (1861)

体純緑色、翅の基色少しく黄色を帯ぶ。胸背板緑色であるが側縁に沿い黄色を呈す。鞘翅は赤褐色を帯びた緑色で光線により美しい草色の光沢を有する事に依り区別出来る。

本種は神戸で従来記録が無かつた様であるが和田君に依ると武庫川には多産するようである。

(採集地) 舞子, 2 Ex., Ⅶ—1939.

六甲, 1 Ex., Ⅶ—1950.

(分 布) 北海道、本州。

8. *Anomala diversa* WATERHOUSE

ウスチャコガネ

Trans. Ent. Soc. London., 1875, p. 106, Pl.

Ⅲ, fig 5:

体は長楕円形、毛を有し翅鞘は淡黄褐色にて会合線の側縁黒色。胸背板は黒色にして強き粗点密布し、やや横たわれる長毛あり。前縁角は僅かに突出し後縁角はほぼ直角である。翅鞘は胸背板より幅少し狭少、両側平行する。淡黄褐色で滑沢があり、会合線及び側縁時として肩部は黒色をなす。明かな細点刻と中間帯に僅少の点刻あり。毛は僅かに基部に近く存することあり。個体数は少い。神戸産としては沢田氏の記録がある(日本の甲虫, IV. 1. 1941. p. 48)。

(採集地) 香檳園, 1 ex., 5—Ⅴ—1942. 多田, 1 ex., 22—Ⅵ—1952.

(分 布) 本州、四国、九州。

9. *Anomala cospureata* HAROLD

カタモシコガネ

Trans. Ent. Soc. Lond., 1875, p. 108.

極めて普通に産する種である。兵庫産としては古く HEYDEN の記録がある (Deut. Ent. Ziet., XXⅡ, 1879, p. 342)。

(採集地) 香檳園、烏原、舞子。

(分 布) 北海道、本州、四国、九州、朝鮮、北支、東滿、ウスリー。

10. *Anomala irregularis* WATERHOUSE

キスジコガネ

Trans. Ent. Soc. Lond., 1875, p. 107, Pl. Ⅲ, f. 4.

普通種である。色彩の変化は極めて多い。

(採集地) 山の街、箕谷。

(分 布) 本州、四国、九州。

11. *Anomala octiescostata* BURMEISTER

ヒラタアオコガネ

Handb. Ent., IV, 1, 1844, P. 243.

非常に美しい緑色を呈して居る。筆者は烏原で採集した一頭を貰い受けて所有して居るだけで産出状況に就いては全く知らない。

(採集地) 烏原, 1 ex., 29—Ⅴ—1942.

(分 布) 本州、四国、九州。

12. *Anomala orientalis* WATERHOUSE

セマダラコガネ

Trans. Ent. Soc. London., 1875, p. 108.

極めて普通種にして色彩の変化亦極めて多い。此の種の色彩の変化に就いては沢田氏の報文(日本の甲虫, II, 2, p. 76, 1938) に詳しく出て居る。新島、木下両氏の発表されたタンバヒメコガネの記載に一致するものも数頭あるが沢田氏の研究に依る本種の黒化型と見るのが適当であると思う。

(採集地) 多田、六甲、山の街、烏原。

(分 布) 北海道、本州、四国、九州、ハワイ、北米。

13. *Anomala pubicollis* WATERHOUSE

ナラノチャイロコガネ

Trans. Ent. Soc. London., 1875, p. 111.

個体数は余り多くない。沢田氏に依ると中胸突起の短い事と雄前脛節尖端の距の無い事に依つて区別出来ると言う。一見して翅鞘の縦隆線は明かでなく平滑で淡黄褐色にして会合線及び側縁黒紫色をなす事に依つても区別が出来る。WATERHOUSE 氏に依つて兵庫は古く記録されて居る。

(採集地) 箕谷。

(分 布) 本州、九州。

14. *Anomala costata* HOPE オオスジコガネ

Proc. Zool. London, VII, p. 73. (Euchlora)

(1839) (China)

杉の害虫として知られて居る普通種。スジコガネに似るも翅鞘の隆起線は顕著、縦隆起線の間室には光沢がある。

(採集地) 再慶山、鳥原、山の街。

(分布) 北海道、本州、四国、九州、北支、東支。

15. *Anomala flavilabris* WATERHOUSE

ヒメスジコガネ

Trans. Ent. Soc. London, p. 110 (1875)

(Japan)

美しい緑色、普通に産する。

(採集地) 山の街。

(分布) 国後島、北海道、本州、四国。

16. *Anomala testaceipes* MOTSCHULSKY

スジコガネ

Etud. Ent. lx, p. 14. (1860) (Japan)

極めて普通種、オオスジコガネよりも小形で翅鞘の縦間室には光沢が無い。

(採集地) 鳥原。

(分布) 国後島、北海道、本州、伊豆大島、四国、九州、朝鮮、満洲、アムール。

16a. var. *anocypria* OHAUS

Stettiner Ent. Zeit., LXXVI, p. 92. (1915)

背面美しい赤色、前胸背の側縁のみ黄色、体下は青銅色。原種に混じて採集出来る。

(採集地) 鳥原。

(分布) 北海道、本州、四国。

16b. Var. *ochroptera* OHAUS

Stettiner Ent. Zeit., LXXVI, p. 92. (1915)

頭部、前胸背、稜状板等金緑色。前胸背の側縁及び翅鞘は淡黄褐色で金緑色の光沢がある。体下は大体に褐色で青銅色の光沢がある。

(採集地) 鳥原。

(分布) 本州、九州。

17. *Anomaa splendens* GYLLENHAL コガネムシ
in SCHONHERR, Syn. Ins., I, 3, Append.
p. 110. (Melolontha) (1817) (China)

美しい緑色を呈する。極めて普通種で6~7月頃に最も多い。

(採集地) 多田、鳥原、箕谷。

(分布) 本州、九州、濟州島、朝鮮、台湾、支那。

Genus *Papillia* Serville

本属に属する神戸産は次の一種だけである。

18. *Papillia japonica* NEWMANN マメコガネ

Ann. Mag. Nat. Hist., (2), II, p. 337. (1838)

(Japan)

極めて普通に産する種であり、害虫として有名な虫である。

(採集地) 鳥原。

(分布) 北海道、本州、四国、九州、北支那。

Tribe: Adoretini

Subtribe: Adoretina

Genus *Adoretus* Laporte de Castelnan

19. *Adoretus lenvimaculatus* WATERHOUSE

チャイロコガネ

Trans. Ent. Soc. London, p. 112. (1875)

(Japan)

極めて普通種。

(採集地) 鳥原、箕谷、三田、舞子。

(分布) 本州、四国、九州、濟州島、朝鮮、台湾、支那、ハワイ。

参考文献

(前回の「神戸産ハナムグリ亜科甲虫に就いて」に於て掲出した以外の文献だけを記する)

1. 近藤英夫: ヒメスジコガネに就いて
ハンノヒメスジコガネに就いて
虫の世界、III, 3/4, pp. 43~34 (1939)
2. 近藤英夫: ウスキイロコガネに就いて
虫の世界、III, 11/12, p. 178 (1940)
3. 桑山 覚: コガネムシ類概説
北海道農事試験場彙報 61号 (1937)
4. OHAUS, F.: Beitrag zur kenntnis der paläarkt
Anomala-Arten (Col. Lamell. Rutelin)
Stettiner Ent. Zeit., LXXVII, p. 320 (1915)
5. 沢田玄正: Phyllopertha 属数種の色彩の変化
日本の甲虫、II, 2, p. 76. (1938)
6. SAWADA: A revision of the ruteline beetles
of the genus Phyllopertha in the Japanese
Empire
Nippon no kochu, IV, I, pp. 42~58 (1941)
7. 沢田玄正: ヒメコガネとハンノキコガネに就いて
昆虫、XIV, 586. pp. 227~229 (1941)
8. 同 : ドウガネとその近似種
関西昆虫学会々報、XII, I, pp. 14~19 (1942)
9. 同 : 2種の *Anomala* 属金龜子に就いて
関西昆虫学会々報、XIV, I, pp. 14~19 (1944)
10. 同 : *Mimela* 属とこれに属する日本産の
コガネムシに就いて。
昆虫、XVIII, 3, p. 10. (1950)
(November, 1952)